熊本市立白山小学校　学校便り

うるとら白山

令和８年８月28日(金)
No. ８
文責：藤本

夏休み　白山小避難所運営を振り返る　～施設管理の立場から～

夏休みが終わり、２学期が始まるにあたり、令和８年熊本地震による白山小学校避難所運営について、施設管理の立場から報告をさせていただきます。

７月28日（火）の地震が起こる45分ほど前まで、熊本市消防局から４名の隊員が来校されており、特殊車両も学校に駐車されていました。定期点検として、学校施設の防火管理について、東京の小学校での火災の件も振り返りつつ、チェックと指導を受け終わったところでした。地震発生時に、消防隊員がおられればという、甘えた思いを持ってしまうくらいの時間差でした。

揺れがおさまったところで、その時間に出勤していた14名の教職員の安全が確認できました。その後素早く、校舎内外の緊急な危険場所の確認、校舎壁面の落下物やガラス破片散乱の大まかな処理、近所にいて学校に避難してきた子どもたちへの対応を行いました。さらに、出勤していない教職員の安否確認の連絡後、出勤している教職員の解散、そしてようやく、避難所開設の準備へと移っていきます。

この日には、白山小児童の安否確認もスグールで行いました。翌日に、まだ確認ができていないご家庭には電話連絡や家庭訪問をさせていただきました。10 時の段階で、児童全員の安全が確認できました。ご家庭のそれぞれの状況にあられる中に、学校からの連絡に対応いただきまして、大変ありがとうございました。保護者の皆様のご協力への感謝とともに、各学年部の職員の素早い動きについても、誇りに思う次第であります。

話が戻りまして、初日の避難所開設の初動に入る段階で、すでに何名もの避難者、数台の避難車が来られていました。このときに、学校に残っていただいた数名の教職員の手がなければ、初動ができませんでした。車の誘導・受付・避難教室の準備・備蓄倉庫からの荷物の移動等、教職員数名で対応したこの時間帯の動きは目まぐるしいものでありました。

もし地震が学校課業日であったなら、子どもの引き渡しと避難所開設の初動に重なりが生まれます。市役所職員の避難所運営担当者が駆けつけるのも、ある程度の時間がかかります。この時間帯の同時の動きを本校職員のみで行わなければならない可能性が極めて高く、さらなるシミュレーションが必要となります。

この初動の場面で大きなトラブルが起きました。それは、地震の影響で、避難場所を予定していた教室のエアコンが効かないということでした。ほとんどの教室がガス式のエアコンで、その全部に影響を受けました。それで、電気のエアコンを設置してある相談室と図書室のみを避難場所としました。もちろん、エアコンが効かない教室も開放しないわけではないのですが、熱中症の心配が相当に高まりますし、実際、とても寝泊りできるような状況にはありません。このトラブルにおける、避難者への説明は難しいものでした。

この避難所開設から、８月９日の閉設までの動きの中で、とても頼りにさせていただいて、たくさん助けていただいたのが、白山校区自治協議会長の由川一夫様であります。地域の代表としてのお力だけでなく、「防災士」としての専門のお力を十二分にいただきました。避難所運営担当者、学校施設管理者（学校職員）の朝夕二回の打ち合わせ会に毎回ご参加いただき、専門的な指導を受けました。コミュニティーセンター等の巡回もある中に、学校にも長い時間待機していただいたり、避難者へたくさん声をかけていただいたりしました。私は特に、由川様から以下の３点を学びました。

① 避難者の思いに寄り添うことを第一とした対応
② 時間経過とともに行う衛生管理の徹底
③ それぞれ担当者同士の意思疎通をよりよく図る

社福協の大久保様にも毎日来ていただき、運営を助けていただきました。私たちのために準備していただいた手作りの朝ごはんのおにぎりの味は忘れられません。青少協の清﨑会長も、毎日、お仕事が終わられて遅い時間に小学校に寄っていただきました。毎日、笑顔でした。

市役所の避難所対応職員は、４日目から、昼（１名）、夜（２名）が入れ替わりました。常に新しい方が来られたので、引き継ぎに気を配っていただきました。私がもった印象としまして、避難部屋・トイレ・手洗い場等の衛生管理や、避難所を閉じることを見据えた掃除や除菌作業・片付けの段取りと進行について、引き継ぎながら作業を確実に進めていく点については、少し難しさがあったのではないかと感じています。この面については、配置のシステムも少なからず関係していたと、私個人では思っています。

市役所の避難所担当の方は、本来、それぞれのお持ちの仕事がある中で駆けつけてくれます。私も昨年度まで市役所勤務をしておりましたが、３年前の能登半島地震の時、熊本市役所の避難所支援の第３陣として、移動も含めて10日弱ほど現地に派遣されました。食事等、自分の生活を整えることを土台としながら、水や電気の状況が厳しい避難所を回り、夜はネットで対応できる本来の自分の仕事を少しでも進め、熊本に戻っても、空けた分の自分の仕事に追われたことを思い出しました。私の自分の経験からも、避難所担当の方に白山小に来ていただけていること自体に、本当に、慰労の思いでいっぱいです。

閉所の日は、由川会長、清﨑会長をはじめ、青少協の方、そして消防団員の方々に来ていただきました。本校職員も、これまで運営業務を行った数名が駆けつけました。避難所担当者のリードもあって、作業を素早く行うことができました。開所もですが、閉所の作業もなかなか大変なものです。人数が集まったので、無事にできました。

学校内の話に戻りますが、今回の経験を生かして、１学期に更新したばかりの「子ども引き渡しマニュアル」を、細かい部分で再更新すべく検討を急いでいます。また、地震で運動場に避難した後の動きの確認、同時に、このような暑さの中での２次避難のための、小学校体育館へのエアコン設置についての教育施策への要望提出など、新たに動いております。

以上で報告を終わりますが、２学期初めの子どもたちの丁寧な受け入れ、順調な学校生活に向けての支援、今回の経験を生かした防災教育の実施等、改めて職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。